

「核兵器のない世界」めざし施策の充実を！

平和施策、口蹄疫対策、戸別所得補償などで一般質問



インターネット中継画像より

6月議会での一般質問。私は平和施策、口蹄疫対策、戸別所得補償制度、第三セクターについてとりあげました。以下、市長や部長とのやりとりの大要です。

【橋爪】2010年核拡散防止条約（NPT）再検討

会議は5月28日、全会一致で最終文書を採用し、閉幕した。最終文書では、「すべての国が、核兵器のない世界を達成し、維持するために必要な取り組みを確立するための特別な取り組みを行う必要を確認する」と明記した。そして、核保有国に対して、「核兵器廃絶のために「いっそうの取り組み」「具体的な進展」を求めている。今回の最終文書をどのように受け止めたか。

【村山市長】この間、北朝鮮の核実験などNPTの体制そのものが大きく揺らいでいた中、全会一致での今回の合意は、「核兵器のない世界」へ前進するものとして、高く評価できるものと考えている。

【橋爪】最終文書がまとまるまでにはいろいろなドラマがあった。平和団体などが日本やニューヨークなどで「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ」と言いながら署名活動などを展

開し、690万人分の署名を集めた。そうしたことが文書をまとめる力につながった。そういう人たちから体験談を語ってもらうなどできないか。

【村山市長】昨年の4月のプラハでのオバマ大統領の演説がきっかけとなつて行動計画が決まったと聞いている。また、NGOの皆さんが大勢かけつけられたのも特徴だった。それぞれの立場での活動は地域の中でその活動が根を広げていくのだろうと思う。私たちは、宣言をした自治体としてその事業に着実に取り組んでいきたいと思っている。

【橋爪】中学生の広島への派遣、一人でも多くの若い中学生の皆さんから体験してほしい。もう少し増やすことができないか。

【野口和広自治・市民環境部長】本当はすべての中学生から広島へ行き被爆者の人たちの話を聞いてもらいたい。その一方で、（派遣された）代表者が同世代の人に伝えるのもインパクトがある。いまのところは増やす考えはないが、いずれにしても成果を見ながら考えるべきところは考えていきたい。

関係団体と連携して戸別所得補償制度の改善を求めていくと答弁

【橋爪】この2日間だけでも口蹄疫対応マニュアルなどをめぐり新たな動きがあるので、これまでの取り組みと今後の方針を改めてお伺いしたい。

【村山市長】当市では、感染報道があつた直後から、上越家畜保健衛生所と連携を取る中で、情報収集に努めてきた。市内畜産農家に対して

口蹄疫の発生情報や防疫対策に関する情報を提供し、注意喚起を行ってきたほか、埋却場所の確保が可能かどうかの調査を行った。

また、県の指導を受け、人員の配置や埋却場所の想定を取り入れた「口蹄疫発生時対応マニュアル」を作成したところだ。

【橋爪】宮崎では、マニユアルにおける口蹄疫の症状についての記述が発見を遅らせたのではないかと指摘もある。マニユアルは見直しが必要ではないか。また、検体を採取し、茨城の動物衛生研究所での最終判定が出るまで12時間かかる。もつと近間で判定できる仕組みを検討すべきではないか。

【野口和広農林水産部長】マニユアルは日々対応が変わるものだとして認識している。最終判定については調査してみたい。

【橋爪】民主党政権が目玉とした戸別所得補償は、当初の期待と異なり、農家や関係者の間に戸惑いや不信感を広げている。

この制度には①低すぎる補償の水準、放置される米価の暴落、②転作作物への補助の削減、③輸入自由化と一体となつていっていること、④農業予算全体を削減し、必要な予算を切り刻んでいくことなどの問題点がある。市長は、この制度の課題と問題点をどう整理しているか。また、今後国に対してどう働きかけていく考えか。

【村山市長】農業者の皆さんからは、水田利用自給力向上事業交付金の大豆等への単価の増額や、米穀の需給調整の達成システムの構築等の改善要望をお聞きしている。関係機関・団体と連携しながら、必要に応じ適切な対応をしてまいりたい。

（第三セクター問題は次号）



七夕飾り

福祉交流プラザの七夕飾りです。写真の女の子が書いた短冊には、「地球のみんなが健康でいられますように」とありました。

春よ来い 第一一五回 Kさんの日々

Kさんは私の中学時代の同級生で、現在、柿崎区に住んでいます。私の家からさほど遠くないところなので年に一、二回はどこかで偶然会うのですが、どこで会っても笑顔で、「元気？」「頑張っているね」と言ってくれます。

先日、久しぶりに彼女の実家で再会しました。茶の間にいたKさんは、玄関先にいる私の姿を見つけた瞬間、「あら、ノリカズ君、入って、入って」と手招きしながら声をかけてくれました。

茶の間では、実家のお姉さん夫婦とお母さん、彼女のお連れ合いが飯台を囲んでおしゃべりを楽しんでいるところでした。飯台の上にはキュウリの浅漬け、小さく切ったスイカがそれぞれ皿に盛ってあります。それに透明の四角いケースに入ったサクランボもありました。食いしんぼの私は、どうしても飯台の上のものに目が行ってしまいます。それがわかったのでしようか、彼女のお姉さんが「今日はね、サクランボ持ってきてくれたがだね。山形へ行って買ってきたがと。さあさ、食べてくんない」と勧めてくれました。

この日、Kさんが実家に出かけてきたのは、サクランボをみんなに食べてもらいたいこともあったのでしようが、何よりも高齢のお母さんや昨年大けがをしたお姉さんの様子が気になっているから。お母さんはすでに九〇歳を超えています。言葉の方は少し不自由なところがあり、ほとんどしゃべることはありませんでしたが、表情はとても穏やかでした。お姉さんの方も、明るい、テンポのいいしゃべりが復活し、とても元気です。Kさんも安心したことでしょう。

サクランボは実がしまっていて、甘味が抜群でした。サクランボやスイカをご馳走になりながら、私はKさんに「例の写真、見つけたよ」と語りかけました。

「例の写真」とは、三〇年ほど前、農業共済新聞の記者が子どもたちを撮った写真です。当時、妻は勤務の関係などもあって、子どもたちとともに柿崎町（当時）に住んでいました。写真は茶の間で撮ったもの。そこには私の長女と長男、それとKさんの子どもさんのT君の三人の姿が写っていました。ブドウをほおぼりながら、妻が作成した手づくりの絵本を見えています。行儀のいい姿ではありませんでしたが、三人とも絵本に夢中になっていて、じつに楽しそうでした。

ある時、Kさんが働いている食堂で、この写真がわが家にあることを教えると、彼女はくりくりした目を輝かせました。じつは、T君は高校一年生の時に脳腫瘍で亡くなっていたのです。まだ元気いっぱい、わが家の子どもたちと遊んでいた頃の写真正もとても懐かしかったのでしょう。

写真は、焼き増してすぐにKさんに渡すつもりでした。ところが、写真は焼き増ししないうちに行方不明となってしまいました。写真は私の仕事場においてあったのですが、三年前に発生した中越沖地震の激しい揺れで部屋の中が滅茶苦茶になり、片付けた際、どこにしまいかかわらなくなってしまうたのです。

この写真が先日、偶然見つかりました。ある本に挟まっていた、傷ひとつついていませんでした。

写真が見つかったことを伝えると、Kさんは、「Tは今年の九月で三四歳になるの」と言いました。母として、T君のことはいつも忘れていないのですね。T君はわが家の長女と同級生でした。顔はどちらかというとお父さんに似ていて、人懐っこいところはお母さんとそっくりです。今度こそ写真を早く届けなければ……。

地域活動支援事業 応募の14件、採択へ

吉川区地域協議会は29日、地域活動支援事業の申請（応募）についての審査を行いました。当初、17件の申請がありましたが、補助残が自己負担となることなどから3件の取り下げがあったということです。

当日は申請のあった14件をすべて審査しました。14件の中には、文化財の保全と活用にかかわるものが2件、溜め池の調査設計にかかわるもの3件、その他、これまで地道に取り組まれてきた活動やイベントを発展させようというものなどがあります。

審査は初めてでしたが、各委員からは、「事業対象をもっと広げるべきではないか」「内容は素晴らしいが、期間内にやるのは困難ではないか」「今年の国体時に農地の荒廃が気になった。農地保全につなげてほしい」など活発な発言が相次ぎました。地域協議会委員が代表を務める団体からも申請が複数ありましたが、忌憚のない意見が出されていました。

審査の結果、14件すべてを採択とすべきということになりました。申請額の100%を認められたのは「えちご吉川少年剣道練成大会」。県内外から剣道の強豪校を招待し、少年剣士の技術の向上と交流を深める企画は大きな評価が与えられました。補助額は69万円。

この他、町田閻魔堂を活用したイベント事業、国田城跡整備事業など8件が90%補助、原之町町内会憩い施設整備事業と水源地域活性化計画作成事業の2件が80%補助となりました。また、溜め池調査設計事業の3件については、「市の補助事業の補助率15/100を適用し、事業費の15/100とする」という条件が付きました。

採択すべしとの結果が出た事業の事業費合計は641万6000円。吉川区への配分額（650万円）に近い金額となりました。残った金額は追加募集ではなく、次年度に繰り越すことを確認しました。

審査された案件は総合事務所長の決済の後、補助金の交付申請・決定と続き、事業開始へと進みます。



審査会場には有線放送や新聞記者も